

動物供養を行いました。

動物科学科では、ウシやイヌなど多くの動物を教材として用い、学習活動を展開しています。特に養牛部門では、飛騨牛の繁殖から肥育、出荷までの一貫した学習を行っているため、私たちの食料になっていく運命にある「命」と向き合いながらの学校生活になっています。

この行事を通じ、動物達への感謝の気持ちと、責任ある学習姿勢について、改めて考える機会となりました。

動物供養の様子

今年は、各学年ごとに行いました。



代表生徒による動物の命に感謝する言葉

動物の霊を慰める言葉

私たちは、学校で飼育している動物達のような、人間のために生まれ、死んでいく動物のために何ができるでしょうか。

「実感がわかないし、自分には関係がない。」
「自分が殺しているわけじゃないし、そういう運命なんだからしょうがないでしょ。」
と、他人ごとにするのではなく、動物のために自分に何ができるのかを考え、行動することが大切だと思います。

私たちにできることはたくさんあります。まず、食べ物に感謝し、いただきます、ごちそうさまを言うこと。これは誰にでもできる大切なことです。

二つ目は、総合実習などの時間に、動物から多くのことを学び、愛情をもって接すること。

三つ目は、表情や行動から動物の気持ちを読み取り、寄り添うこと。

最後に、一つ一つの管理作業など、自分の行動に責任を持って取り組むことが大切です。

私たちは、命を扱う農業を学ぶ高校に入学したからこそ知れることが沢山あります。動物たちの命を預かり、利用している私たちにできることを考え、1回1回の実習活動を大切にしていきましよう。

令和二年十月二十九日

食の農学科群一年生徒代表 伊藤真鈴